

# 図書館通信 — 75 —

1986. 3

## 随 想

教養部 英語学 赤 岩 總 雄

数年前、学生生活を中心とする調査を目的として、文部省派遣の形でフランス・イギリス・アメリカのいくつかの大学を視察するために、駆け足で3か国を3週間で訪問したことがある。関心の中心は学生生活特に奨学金制度及び学寮制度にあったので、ほとんどの訪問先は各大学の学生部と学寮で、図書館は一度も訪問しなかったが、今も印象に強く残っているのはマサチューセッツ大学の会館に宿泊した時のことである。12月の寒い季節、暖房のよく効いた部屋だったのはいいが、効き過ぎて暑苦しく、夜12時頃に目が覚めた。暖房を調節するとともに窓を少し開けるために起き上がった。会館の前に周囲500m位の大きな池があり、その側に図書館があった。キャンパスの中でも目立って高い建物なので(正確ではないが18階位だったと思う)、その建物が図書館であることは前日到着と同時に聞いて知っていた。その図書館のほとんどの階が明々と照明され、不夜城の観を呈しているのを一瞬息を吞んで眺めた。米国の大学では、24時間開館されている図書館もあるということは情報としては知っていたが、目の当たりにするのは初めてであった。その壮観に寒くなってきたのを忘れてしばらく眺め入っていた。

振り返って、わが静岡大学で24時間開館またはせめて12時までの開館というような時期が来るのであろうかと考えた。8時45分までの開館延長も簡単には実現しなかった経緯が思い出された。人員の問題、それに伴う経費の問題が障害になっていた。経費負担増を理由になかなか賛成しない部局もあった。だが考えてみるとおかしな話である。研究・教育機関としての大学が、高等学校までの教育機関と決定的に違っているのは図書館の存在であろう。高等学校等にも図書室はあるが、独立した建物を持ち、数十万冊の文献を収容している図書館がキャンパスの中心に置かれていることが最も大学という機関を象徴しているはずである。せめて12時まで開館ということがもうそろそろ実現してもいい時期ではないかと思われる。

ところが、学生の図書館利用状況から判断すると、更に開館延長することには恐らく疑問が強く出されるように思われる。学生の図書館利用状況は十分とは言えないようである。閲覧室がしばしば利用者であふれ、閲覧室の拡張と開館時間を更に延長することを望む声が強くなる時期が来るのであろうかと思うのである。

戦争直後に大学生生活を送った私は図書館及び英語の資料室が最も気に入った着ける場所であった。新刊図書はほとんど出版されず、古本屋にも求める本が見つからず、見つかったも手が出ないほど高価であった。活字に飢えていた時代でもあった。かなり真面目学生であった私は授業のない時間はたいてい図書館で過ごした。戦後の住宅事情のために、着ける下宿がなかなか得られなかったことも理由の一つであったが、思い出せば図書館は私にとっては大学の中で最も懐しい場所である。

日本の大学は入るのが難しく出るのは易しいとよく言われる。出るのが易しい大学生は図書館の必要を痛感することがないということであろうか。

### も く じ

随 想	1
私と図書館	
図書館の利用と勉強	2
もう一つの図書館	2
図書館の音	3
図書館と私	3
<係から…2> 運用係	4
学生用雑誌・新聞一覧	5
お知らせ・教官寄贈図書	6



◎新入生のための図書館利用案内のお知らせ  
は4ページに

## 私 と 図 書 館

## 図書館の利用と勉強

何 普 明

私たち学生にとって、図書館はなくてはならないことは言うまでもないことである。図書館にはいろいろな参考書、雑誌などがある。私たちが授業を聞いて分からないとき、自分で、あることについてもっと詳しく知りたいとき、あるいは何か困っているときには、図書館に入れば、きっと何か役に立つことがあるだろう。

私は今まだ教養部二年次の学生であり、サークルに入っていないおかげで、図書館に入る回数はふつうの学生よりちょっと多い。図書館をあてにしないで、勉強が進められる場合もあるが、スムーズに進まない場合が多い。例えば、物理実験なり、化学実験なり、その実験指導書に書いてある実験原理を理解するのに、またレポートの考察を書く（または実験のまとめを完成する）のに、分からないことがある場合はどうするか。私はまず先に自分のもっている参考書か以前の教科書を取り出して、分からないことについて調べる。その場合で分かったら済むが、まだ分からない場合には図書館へ行って調べる。実験だけでなく、他の一般科目の勉強でも同じようなことが言える。

別に勉強上の問題がなくても、図書館に入る意味はある。図書館には通常、新聞や、いろいろな雑誌が置いてあるので、図書館に入って、新聞を読んだり、雑誌に目を通したりするのは上手なひまのつぶし方である。もちろん、生協の書籍部に入って、立ち読みしたりするのもいいだろう。

外国の事情に関心をもっている人々によい知らせがある。それは静大の図書館の窓口からでも、各国の事情を知ることができるということである。ヒントをさしあげると、雑誌コーナーや年鑑、その他である。時間があつたら、教科書やノートや自分の読みたい本を持ち込んで勉強すれば、一番いい。これはそもそも図書館の役割の一つである。もう一つの役割はそこから本、雑誌、資料を借りること、あるいは貴重なデータのコピーをとってもらふことである。とにかく、みんなで図書館を有効に利用しましょう！

(農学部・農芸化学科2年留学生)

## もう一つの図書館

北 條 恵

この図書館を、レポート・授業の予習・試験前の追い込み(ノートの穴埋め?)・卒論の資料集めなど、それ以外で利用している人がいるだろうか? 「ならばこれ以外、何に使うんだ。」とか、「大学図書館は勉強・研究に使うのが本来の姿だろう。」と言う人もいるだろう。勿論この様な利用法は否定しない。しかし、あれだけの蔵書がありながら、自分の専門分野しか見ない法はないと思う。この様に偉そうに言う程、私も図書館を有効利用してきた訳ではない。始めにあげた方法でさえ満足に利用しなかった。しかし、三年生になったある日、いつも見る物理学分野の棚からふらっと離れ、別の棚を見て回った。それまで文学など無縁と思い、危険地帯の様に近づきもしなかった。大体、通路側には難しそうな本が並び、「どうせ……」という気持ちもあった。しかしその時はどういう訳か奥まで入り、書名を眺めていた。そこで見たものが一瞬信じられなかった。高校の図書館にはなかった童話が並んでいた。しかし、教育学部に小学校課程で学んでいる人がいるのだから不思議はない。ただ私が無知なだけだった。しかし、これは私にとっては嬉しい発見だった。実は私は、難しい本は一切駄目。童話が一番好きで、小さい頃に自分が自分の中に創造した世界へ入り込めそう時々読んでいる。しかし、童話はその読み易いスピードに合わせて自分で揃えるのは金銭的にも勿論大変な事であるし図書館で見つけたこの種の本は読んでみたいが、買うにはちょっと…という本だった。それからは、授業の空き時間に図書館でどっかりすわり読みふけり、私にとっては新しい図書館利用法が出来た。残念ながら今では空き時間がなくなり、この発見も生かせなくなったが、これが本来の図書館の姿ではないか? と最近思う。

図書館が私達に役立つ場所であり、使い易くするためには利用を増やし要求すべきだという事はきっと誰かが説明して下さると思うので、私は少し視点を変え、自分のもう一つの図書館を皆さんが見つけて下さればと思う。

(理学部・物理学科4年)

## 図書館の音

駒井里美

私がネブラスカ州立大学オマハ校 (UNO) に留学していた頃のこと。UNO の図書館ではすべての本が開架図書だった。だからまずカードで必要な本があるか確かめ、そこでメモした分類番号をたよりに学生は書棚から書棚へと自分の足で目当ての本を捜し出す。別にこれとってほしい本がなくても、歩きまわっているうちに変わった装丁の本や、〇〇先生が言っていた例の本というのはこれだったのかなどと思う本とばったり出会うことがある。すべての図書が利用者の目に触れることができるおかげである。驚異的なのは、あれほど多くの学生が毎日触っているはずの図書が見事に整理されていることである。書棚の本は常に分類番号通りに整然と並んでいた。それもそのはず、利用者が一旦書棚から出した本はすべて、司書の方々の丁寧な手によって正確に元の位置に戻されるからである。学生は用が済んだ本は机の上に出したままにして帰らなければならなかった。

UNO は、図書館で学生のアルバイトを時給\$3.75 (法的最低賃金) で雇っていた。机の間を縫うようにしてキャリアを手で押して歩き、学生がいなくなった机を見つけてはちらかっている本を回収するのが彼らの仕事だった。カーペットで敷きつめられた床の上でも、キャリアの小さな車はコロコロと音をたて広い図書館にかすかに響いていた。

居眠りをしないように、冷気が通り抜ける地下のトイレとコピー機のそばに陣取って、不熱心な私は相変わらず昼寝をしていた。目が覚めるとほとんど遅刻だったのであわてて飛び出した。上着を置いたまま。ポケットには、クリスマスプレゼントを買う予定の普段よりは大金が詰まった財布が入っていた。落としたお金は絶対出て来ないと聞いていたから上着だけでもと思い授業の後、図書館に戻ってみると意外にも司書の方がすべて保管してしてくれた。アルバイトの学生が、私が行くとすぐちらかした本と一緒に回収したという。

今でもクリスマスが近づくと、どんな学生がコロコロとキャリアを押しながら、私がおそおそと上着を脱ぎ捨てたまま飛び出す一部始終を目撃していたのかと思うことがある。

(大学院・教育学研究科2年)

## 図書館と私

橋寛人

図書館には、分野別系統的に図書が整理されているので、読書には効果の多いところといえる。けれど書物を選ぶことで手間どっては、その効果もうすくなる。そこで目的の書物を早く手にするには、図書分類、図書目録の使い方をあらかじめ知っておくと便利である。しかし、これは親切な司書が図書館にいるので安心である。書物を読んでいて気のついたところは、ノートする様にした。また書名をいくつか控えておくことも、自分が購入するときに役立つものである。

ところで、最近は活字離れの傾向にあり、本を読んで考えるという学生が少なくなって来ている様だ。日本は物質的には恵まれているが、人に厚みというものが無いと思う。これは書を読まないところにあるのではないだろうか。ケケロの名言に、「部屋に書物のないのは身体に精神がないにも等しい」というのがある。われわれが社会のいろいろなことを知る為には、勉強と経験が必要である。勉強は先生やその他多くの人たちから学ぶ事と自分が書物を読んで学ぶ事の二つがある。だから書物を読む事は一つの勉強であるといえるし、人間形成の大きな要素だともいえるのである。書物には自分の経験していない事、知らない事、ためになる事も書かれているので、読書することにより色々な事を知る事が出来る。つぎに書物は人間を考えさせるものであるから、考える人間をつくる。

このように書物は人間が生きていく為の考えや方向をその中にもっている。書物を読む事は、いかなる時でも必要である。経験だけの知識、考えようしない人間は、まず発展性はない。目まぐるしく変わりゆく現代の社会において、忙しいから本を読めないというのはおかしいと思う。忙しい時だからこそ一冊の本をゆっくりと時間をかけて読めばいいと思う。大学内には、図書館の外にも図書室がいくつかある。各自休み時間等に訪れ書を読むゆとりをつくってみたいかがですか。

最後に、若いうちは古典にあたる事も必要であると思う。現代が目まぐるしく動いている時だからこそ各分野の原典、歴史的名著を手にしてみる事も必要である。そして、深く考える事が必要ではないだろうか。

とにかく、環境のいい所 (例えば図書館) で各自の時間の取れた時、ゆっくり考えながら読書を楽しもうではありませんか。各自のペースで……。(法経短大2年)

## 〈係から…… 2〉

運用係 内線 268・269

利用者オリエンテッドを標ぼうしているの、図書館の各係の名前は、比較的わかり易いものになっている。たとえば、受入係、参考調査係とくれば、何をやるどころかは、たいてい見当がつくし、たぶん、その想像は間違っていないだろう。ところが、《運用》係となると、ハテナ?であろう。普通ならば、組織の運用とか、お金の運用とかになる訳で、だとしたら、それは館長以下の管理者層の考えることであり、庶務とか会計といった係が実行すること。図書館だから、多分、本を《運用》する係ということになるが、とするならたかが本に対して大げさなネーミング、と思われても仕方がないだろう。

ところが、名前のわかりずらに反し、一般の利用者が図書館を訪れて、すぐさまその仕事の内容を認識できるのが、「運用係」である。(利用者から見て) カウンターの向う側に、面白く無さそうな顔をしてツツ立っており(時には、と我々自身は思っているが)、本を借りようとしたりする時、相手となる連中のいる係である。

利用者第一とするなら《閲覧・貸出》係とすべきだろう。が、わざわざ不可解なネーミングをしたところがミソなのである。

我が静大附属図書館では、約5万冊の開架式図書ほかに、その10倍以上、約50万冊の本が、閉架式として書庫に収められている。利用者は、

カード目録を探り、閲覧票なり貸出票に記入し、**運用係員に書庫から出してもらうことになるのだが**、この書庫の中の本の配置が狂うと、忽ち不明図書になってしまう。なにしろ、50万冊である。毎日、毎日、書庫内に入っている、なかなか覚えられないものではない……。

さらに雑誌がある。メインフロアに約150誌が、ほぼその年度内のバックナンバーと共に並べられている。早トチリの利用者で、それらが雑誌のすべてと思いつくもいて、少なからず困惑する時もあるのだが、図書と同じように、書庫の中には、ずっと過去までさかのぼってバックナンバーが揃えられた約1万種の雑誌があるのだ。タイトルのアルファベット順に並べられているが、これも配架の場所を違えると、先に同じ、である。

まだある。国内外の新聞、官公庁の資料、国際連盟の資料、などなど、である。

《運用》というのは、この書庫を含めた50万冊以上の本、約1万種の雑誌、そして、その他を常に「すぐさま」取り出すことが出来るようにすることを指しているのである。

とはいっても、それはウラでの話、利用者にとっては、あくまでも閲覧・貸出係である。最大限のほほえみを浮かべて(大ていの時は、と我々は思っている)、利用者の要望を聞く次第。係員も図書館の備品のひとつ、それも、動き回ることができ、しかも《会話》さえ出来る備品だと思ってもらって差しつかえないし、並のレファレンス・ブックよりは、よほど出来のいい、有用なもの、と思っただいて構わない。

～ 新入生のための図書館利用案内のお知らせ ～

## ライブラリー・オリエンテーション

期 間： 4月14日(月)～4月18日(金)

第1部： 図書館および資料の案内と利用法の説明 (ビデオによる繰り返し放映)

時 間： 午前10:00～午後4:00 (除く12:00～13:00)

所要時間： 1回15分

場 所： 喫煙コーナー (4階閲覧室入口右側)

第2部： 書庫内案内

時 間： 第1回 午後1:30～ 第2回 午後3:30～

所要時間： 毎回15～20分

集合場所： 喫煙コーナー (4階閲覧室入口右側)

## 〈資料案内〉

## 学生用雑誌・新聞一覧

## ■和雑誌

## A

アニマ  
アサヒカメラ  
朝日ジャーナル  
アジア経済

## B

Basic 数学  
ビデオサロン  
bit  
美術手帖  
望星  
文学  
文学界  
文芸  
文芸春秋  
文化評論  
文化財  
文献ジャーナル  
部落  
部落解放

## C

Clipper

## D

ドキュメンテーション研究  
道徳と教育

## E

映画芸術  
英語教育  
英語青年  
栄養と料理  
エコノミスト

演劇界

エレクトロニクスライフ

## G

学校体育  
学術月報  
芸術新潮  
現代化学  
現代コリア  
現代農業  
現代思想  
現代詩手帖

言語  
言語生活  
群像

## H

俳句  
博物館研究  
判例時報  
へるめす  
東アジアの古代文化  
フィジクス

法学教室  
法学セミナー  
北方文芸  
法律の広場  
法律時報  
ふらんす  
婦人公論  
婦人通信

## K

化学  
科学  
科学朝日  
科学技術文献速報：  
管理システム編

科学史研究  
化学と生物  
科学と思想  
海洋科学  
経済  
経済学文献季報

経済月報  
経済評論  
経済研究  
経済セミナー  
キネマ旬報

切抜き体育スポーツ  
基礎ドイツ語  
行動科学研究  
公害研究

公害と対策  
国文学 解釈と鑑賞  
国文学 解釈と教材  
の研究(別冊共)

国語学  
国語国文  
国語と国文学  
昆虫と自然  
暮しの手帖  
教育  
教育心理  
教育と情報  
教育運動研究  
教職課程

## M

マイコン  
毎日ライフ  
みんなのスポーツ  
季刊民族学  
みずゑ

## N

Newton  
人間工学  
日本文学  
日本古書通信  
日本の科学と技術  
日本統計月報  
日本児童文学  
農業及園芸  
農業と経済  
ニューズウィーク日本版

## O

音楽の友

## P

パリティ

## R

歴史学研究  
歴史評論  
歴史と人物  
レコード芸術  
理論経済学  
労働運動

## S

サイエンス  
三彩  
生物科学  
世界

世界の労働  
詩学  
新聞月報  
新潮  
新住宅  
思想  
思想の科学  
総合ジャーナリズム  
すばる

数学  
数学セミナー  
数理科学  
書壇  
植物と自然  
諸君  
就職ジャーナル

## T

旅  
太陽(別冊共)  
短歌  
たしかな目  
テアトロ  
月刊天文  
畜産の研究  
地球  
地理  
地図  
東洋学術研究  
中国語  
中央公論

## Y

山と溪谷  
世論調査  
唯物史観  
ユネスコ・クーリエ  
ユリイカ

## Z

雑誌記事索引  
科学技術編  
雑誌記事索引  
人文科学編  
前衛  
児童心理

人民中国  
人類学  
時事英語研究  
受験新報  
ジェリスト

### ■外国雑誌

Life  
Newsweek  
Time  
U. S. News & World  
Report

### ■新聞

朝日新聞  
ASAHI EVENING  
NEWS  
Japan Times  
毎日新聞  
日本経済新聞  
日刊工業新聞  
サンケイ新聞  
静岡新聞  
東京新聞  
中日新聞  
読売新聞

### ■教職員著作寄贈図書

小山陽一 (人文学部)  
『巨大企業体制と労働者』御茶の水書房  
⇒ 366.021/O 95  
坂本重雄 (人文学部)  
『社会保障の変容と展望』〈編著〉勁草書房  
⇒ 364.3/I 78  
山本義彦 (人文学部)  
『現代日本経済史』〈執筆〉有斐閣  
⇒ 332.1/Y 48 (開架)  
『講座日本歴史 9 : 近代 3』〈執筆〉東京大学  
出版会 ⇒ 210.1/R 25/9 (開架)  
『日本資本主義発達史』〈注〉野呂栄太郎著  
岩波書店 ⇒ B 332.1/N 96/1-2 (開架)  
金田利子 (教育学部)  
外山知徳 (教育学部)  
山脇貞司 (人文学部)  
『ゆれうごく家族』〈共編〉ミネルヴァ書房  
⇒ 367.3/Ka 52  
外山知徳 (教育学部)  
『住まいの家族学』丸善 ⇒ 527/To 79  
黒羽清隆 (教育学部)  
『十五年戦争と平和教育』地歴社 ⇒ 375.32/  
Ku 72  
『歴史教育ことはじめ』地歴社 ⇒ 375.32/  
Ku 72  
田村貞雄 (教養部)  
『日本史をみなおす』青木書店 ⇒ 210.04/  
Ta 82 (開架)  
土隆一 (理学部)  
『静岡県の自然景観』〈編著〉第一法規出版  
⇒ 455.915/Ts 25  
柴田周三 (理学部)  
『化学のための量子力学』〈訳〉M.W. ハナ著  
培風館 ⇒ 431.27/H 29  
浅井忠 (元教養部)  
『時計関係年表 上巻』 ⇒ 535.2/A 83  
『和時計調査報告垂揺球儀』和時計学会  
⇒ 535.2/A 83  
大畑専 (元・事務官)  
『詩随筆集・道』近代文藝社 ⇒ 911.56/O 28

※上記の雑誌・新聞はそれぞれ雑誌コーナー及び  
新聞コーナーに備付けてあります。

### ■人事異動

昇任 (60.12.1 付)

春山俊夫 運用係長 → 図書館専門委員  
望月信夫 運用係 → 運用係長

配置換 (60.12.1 付)

長南千恵子 参考調査係長 → 整理係長  
石原良江 整理係長 → 参考調査係長

### お知らせ (本館)

#### ◎春期休業中の長期貸出

貸出冊数：5冊  
貸出開始：昭和61年2月17日(月)から  
返却期限：昭和61年4月21日(月)  
なお、卒業見込者及び工学部3年進級見込者  
には長期貸出はいたしません。

#### ◎臨時休館

昭和61年3月20日(木)～3月31日(月)

#### ◎開館時間の変更

4月1日(火)から10日(木)までの間は、平日は午  
後5時、土曜日は正午で閉館いたします。